

井上隆雄

第19回アーカイブ研究会

井上隆雄写真資料に基づいたアーカイブの実践研究



1960～70年代に見られる 芸術表現の研究拠点形成と 資料アーカイブの構築

講師：伊村靖子

(情報科学芸術大学院大学(IAMAS)講師、国立新美術館客員研究員)

2017年12月9日(土)

14:00—16:30(13:30受付開始) 入場無料

会場：元・崇仁小学校 1Fふれあいサロン

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



芸道研
GEISHIKEN

プロジェクト「井上隆雄写真資料に基づいたアーカイブの実践研究」とは、京都市立芸術大学芸術資源研究センターにおいて2017年4月より始まったプロジェクトです。本研究センターでは、2016年7月に亡くなられた写真家・井上隆雄氏の膨大な写真資料をお預かりしています。本プロジェクトは、本学出身であり写真家として多くの功績を残してきた井上隆雄氏の写真資料を対象として、アーカイブ（資料調査・分類・利活用）の実践を行いつつ、さらにそのような実際の資料調査を通じた美術・文化史への新たな方法論の構築を目指しています。また本プロジェクトは、このような写真資料のアーカイブ活動そのものを一つの実践として位置付けています。そのため、定期的な研究会を実施し、アーカイブ実践のための知識を蓄積し、人的交流（学生、研究者、学芸員、

アーティストなど）を深めていくことも検討しています。そこで今回、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)の伊村靖子さんを講師としてお招きし、アーカイブ、資料研究に関する研究会を開催します。「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」をタイトルとして、主に、芸術表現の多様化と資料アーカイブの可能性、近年の資料研究の動向をトピックスとします。その一例として、国立新美術館における「精神生理学研究所」(1969～70年)研究、IAMASで取り組んでいるメディアアートの資料化および研究の位置付けについてお話頂きます。



「第6回精神生理学研究所」
(国立新美術館蔵)



講師紹介：伊村靖子

情報科学芸術大学院大学(IAMAS)講師、国立新美術館客員研究員。

「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」(科研費15K02129)研究代表者。

2013年京都市立芸術大学博士号(芸術学)取得。

研究テーマは「1960年代の美術批評——東野芳明の言説を中心に」(博士学位論文)。

共編に『虚像の時代 東野芳明美術批評選』(河出書房新社、2013年)。

論文に「色彩と空間」展から大阪万博まで——六〇年代美術とデザインの接地面』『美術フォーラム21』第30号、醍醐書房(2014年11月)、「精神生理学研究所」——メディア論としての作家表現』『国立院美術館研究紀要|NACT Review』第4号(2017年11月刊行予定)など。

関わった展覧会に2014年に「美術と印刷物——1960-70年代を中心に」展(東京国立近代美術館)など。

現在は、第7回岐阜おおがきビエンナーレ「新しい時代 メディアアート研究始め」を準備中。

2017年12月9日(土)

14:00—16:30(13:30受付開始) 入場無料

会場：元・崇仁小学校 1Fふれあいサロン

タイムスケジュール

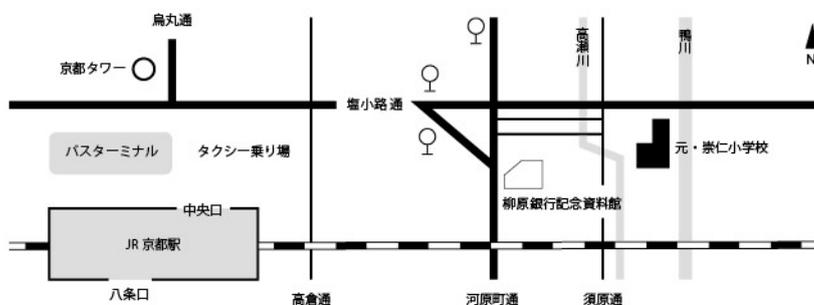
14:00-14:10…プロジェクトの概要について／山下晃平

14:10-15:40…レクチャー／伊村靖子

15:40-15:50…休憩

15:50-16:30…質疑応答

アクセス



京都駅の烏丸中央口から塩小路通を東へ徒歩約7分。

元・崇仁小学校 〒600-8252 京都府京都市下京区川端町16

企画：山下晃平：「井上隆雄写真資料に基づいたアーカイブの実践研究」プロジェクトリーダー

主催：京都市立芸術大学芸術資源研究センター

協力：石谷治寛、石原友明、入澤聖明、桐月沙樹

助成：平成29年度京都市立芸術大学特別研究助成

お問い合わせ

山下晃平：kazenone.kk@gmail.com

京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6

TEL/FAX: 075-334-2217 メール：arc@kcuu.ac.jp

ウェブサイト：http://www.kcuu.ac.jp/arc